

ドッグセラピー

癒し効果大

JR八幡駅近くの高齢者専用住宅・シニア・コートに八幡で15日夕方、ドッグセラピー犬と触れ合う会が行われた。

アニマルセラピーの歴史は古代ローマまで遡る。負傷した兵士に馬で気分を癒させたという記録などがあるという。動物セラピーはストレスを解消し、自信を回復し癒す効果が期待されている。

同日、シニア・コート八幡にやってきたのはNPOドッグセラピージャパン理事長の野田久仁子さん、小倉北区で開業するわん仔ショップ・パデア代表の野田直樹さんとボランティアの方々。主役はスタンダード・プードルのルビー、ゴールデンレトリバーのブルチ、プードルのもずくちゃん、くまちゃんら7頭。入居者の皆さんは田陣

に配置された椅子に座り、一頭ずつボランティアが抱いたまま、入居者に紹介がてら見せて、希望者の膝に犬を置く。犬の需要と供給が一致せず、隣の人が犬を触っているのをじっと待つ、という入居者も少なくなかった。だが自分の番が来ると見る間に顔の筋肉という筋肉が緩んだ。デイスリーブスから帰ってきた入居者も次々に田陣に加

わり、「昔、飼っていた犬がいてねえ」等の記憶の手繰り寄せにもなった。

シニア・コートでは次のドッグセラピーの計画を検討中だ。



触る度に顔が柔和に